

成人の日に当たって

静岡雙葉中学校・高等学校

校長 土屋 枯野

第71回卒業生の皆さん、ご成人おめでとうございます。

保護者の皆さんも、お嬢さま方のご成人のお祝い、おめでとうございます。

成人の日は、二十歳になった青年男女が、社会的にも法律的にも大人になったことを祝い励ます国の祝日です。しかし、現在の日本では、特に皆さんのような大学在学中の人にとっては、20才になっても新しいことはほとんど無いかも知れませんね。確かに法律的には、お酒を飲むことや、親の同意が無くても結婚ができるようになったり、その反面、社会的な責任が重くなったりはしますが、現代の日本社会に合わせるなら、就職が決まって仕事の世界に入ろうとしている人に対して何か式をして上げる方が適切なのかも知れません。

さて、コロナウィルス感染症ですが、残念ながら簡単には終息しないでしょう。治療薬や予防ワクチンが実用化されるには、まだ何年かの時間が必要だと言われています。そんなコロナ禍の中にあっても、大学生である皆さんにとっての1年は、とても貴重な時間であり、大学卒業後に向けて、その時間を実りあるものにしなければなりません。それは中高でも同じで、学校ではこれからも知恵を絞って、生徒たちが充実した生活を送れるように支援していきます。

皆さんには、自分が感染しないことに注意すると同時に、他の人に感染させないという、周囲へのやさしい配慮、特に感染してしまった方々への思いやりの気持ちを、常に持って欲しいと思います。自分が感染する脅威にさらされないためには、他者への感染を確実に防ぐ必要があります。感染する可能性は、いつでも、どこでも、誰にでもありますから。

パンデミックという深刻な危機に直面した今こそ、「他者のために生きる」という人間の本質に立ち返ることが求められていると思います。2019年11月に来日したローマ教皇フランシスコが、青年たちとの集まりでお話くださったメッセージを、皆さんに紹介します。

こんな言葉です。

「もっとも重要なことは、何を手にしたか、これから手にできるかという点にあるのではなく、それをだれと共有するのか、ということです。『何のために生きているのかではなく、だれのために生きているのか。だれと、人生を共有しているのか』です。

何のために生きているかに焦点を当てて考えるのは、それほど大切ではありません。肝心なのは、だれのために生きているのかということです。物も大切ですが、人間は欠けてはならない存在です。

(中略)

『…神様はあなたの中に、沢山の良いもの、たまもの、カリスマを置かれましたが、それらはあなたのためというよりも、他者のためなのです。』他者と共有するため、ただ生きるのではなく、人生を共有するためです。』

教皇様が、このようにはっきりとおっしゃったように、他者の幸せのために奉仕するというのは、キリスト教の本質です。ということはカトリック学校である雙葉の本質とも言えます。それは義務であるというよりも、そこにこそ人間の真の喜びがあることを示しています。雙葉で学んだ皆さんなら、自分のためだけに生きていたら本当の喜びはないということには、もう気が付いていることと思います。

本当の幸せとは、他者と関わり、他者を大切にすることこそ生まれてくるものです。家族を大切にすること、友だちを大切にすること、社会で困っている人を大切にすること、それが自分を幸せにするし、他者も幸せにする、そして社会全体を幸せにする。キリスト教で言う神様の愛とは、具体的にはこのように働くのだと思います。それが神様の人間に対する愛の表し方なのです。

ですから、人間関係において、損得とか、勝ち負けとか、やり取りでなく、見返りを求めずに、自分の何かを削って相手を大切にすることが、神様の目からみて最も価値あることであり、本当の幸せにつながる道だと言うことです。

成人を迎えた皆さん、これからの人生でも、どうぞ、雙葉で学んだことを一つのヒントに、周りの環境、相手の出方に左右されないで、人と関わり、人を大切にして、自分らしく生きていてください。神様はいつも皆さんの側で、皆さんが周りの人を大切にする生き方を選べるように助けて下さっているはずですよ。

それでは最後にもう一度、成人のお祝い、おめでとうございます。